



Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE



今年も残すところあと少しとなりました。クリスマスを前に、街はイルミネーションで美しく彩られていますね。そんな中、世界中で痛ましいニュースが飛び交い、犠牲になられた方に心からのご冥福を、そして世界の平和を祈るばかりです。

12月のミュージズでは師走の忙しさも忘れさせてくれる様な公演が目白押しです！

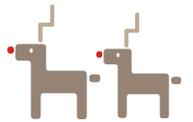


❄️ 12月23日クリスマス・オルガンコンサートの魅力を徹底解剖 ❄️

今年の12月はドイツからヘルムート・ドイチュ氏をお招きして、クリスマス・オルガンコンサートが行われます。現在はシュトゥットガルト音楽院で教鞭をとり、国際コンクールの審査員をはじめ、数々のレコーディングや演奏会を通して世界的な音楽活動を行っているオルガニストです。背が高く、ダンディかつチャーミングなお人柄から繰り出される音楽は会場を包み込むようにスケールが大きく、まさに**ドイツオルガン界の貴公子**といえましょう！今回のクリスマスコンサートに向けて、何度もご相談を重ねるなかで、この公演のために最高のプログラムを組んで下さいました。ドイツのザールルイという街に生まれたドイチュ氏ですが、この地方はフランス国境にほど近く、名前にもフランス国王ルイ14世の名が刻まれるほどフランスとの縁が深く、歴史的にもフランス領とドイツ領を行き来した地です。それゆえドイチュ氏はフランス語も堪能で、ドイツ語が不勉強な私でもフランス語でお話ができます。この様な複雑な歴史をもつ地で生まれた氏は、ドイツのレパートリーのみならず、フランスの作品にも非常に理解が深く、其々のスタイルでしっかりと弾き分ける事の出来る優れた演奏家なのです。今回のプログラムをご覧頂くとそれが一目瞭然！その魅力を詳しく見て行きましょう♪



❄️ ちょっとその前に...ヨーロッパのクリスマスの定番をいくつかご紹介 ❄️



クリスマスとはイエス・キリストがこの世に降誕された日。そしてクリスマスのイヴ（12月24日）の約4週間前の日曜日からは、キリストの降誕を待ち望む待降節（アドヴェント）が始まります。キリスト教文化の薄い日本ではクリスマスという経済的な印象が強く、お友達や恋人とロマンチックに過ごす印象がありますが、ヨーロッパでは家族と共にこの喜びの日を迎えます。今年は11月29日の日曜日からはアドヴェントに入りましたが、今日はこの時期にキリスト教徒の家庭や教会でみられる定番の習慣をいくつかご紹介します！なかには日本でも馴染みのものもありますね！



【アドヴェント・リース】

常緑樹などで作ったリースに4本のろうそくを立て、日曜日毎に一本ずつ火を灯してゆきます。



【クリスマス・マーケット】

14世紀にドイツで発祥したアドヴェントの時期に開かれる市。オーナメントやホットワイン、「シュトレーレン」などが売られ、賑わいます。

【真夜中のミサ】12月24日の夜から25日の0時にかけて、キャンドルの光やキャロルと共に、真夜中のミサが行われます。ミサに参列した後のクリスマス当日25日は家族や親戚が大集合して七面鳥を囲み、豪華な宴が始まります。



『真夜中のミサ、七面鳥にクリスマスプレゼント』の光景はまさに、日本の『初詣、お正月のお節とお年玉』といったところでしょうか！普段ミサに参列しない人達もこの日ばかりは！と参加するのでクリスマスの教会は大賑わいで、24日から25日にかけては沢山のミサが行われます。なので、この時期、オルガニストは大忙しなのです！そのような大切な時期にドイツから演奏にいらして下さるドイチュ氏のプログラムはこちらです↓



前半の魅力：まさに王道！バロック時代のクリスマス作品

前半は主にバロック時代を中心に、バッハやブクステフーデのクリスマス作品が演奏されます。どれも名曲ばかりで、喜び溢れるクリスマスの光景が目浮かぶような美しい作品が並びます。

『前奏曲とフーガハ長調BWV 547』はバッハもクリスマスの時期に演奏したと伝えられる作品で、3連符で駆け上がるように奏されるハ長調の音階とキリストの降誕を表すかのような下降音形が複雑に絡み合う華やかな作品です。

同じくバッハの『パストラール』は、田園であつまる羊飼い達の前にキリストの降誕を知らせる天使があらわれ、その光のもとへ訪れる光景を題材に書かれています。のどかな田園の風景、そしてキリストがお生まれになるという喜び、その後待ち受ける受難の兆しなど、様々な様子が見事に4楽章の中に表現されています。

次に演奏されるのは、バッハも多くの影響を受けた北ドイツオルガン楽派最大の作曲家**D.ブクステフーデ**によるコラール幻想曲『**暁の星のいと美しきかな**』。このコラールもパストラール同様、キリストの降誕を示す輝く星について歌われます。マリアの受胎告知の祝日にも歌われる美しい旋律のコラールで、多くの作曲家がこの歌を主題に作品を残しています。

前半の最後を締めくくるのはフランス古典期の作曲家**L.-C.ダカン**によるクリスマスの民謡をもとにした華やかな変奏曲『**ノエル**』です。この『ノエル』の形式は当時大流行し、とりわけノートルダム大聖堂のオルガニストをしていたダカンのノエルを聴く為、真夜中のミサでは大行列ができたという逸話も！これは聴きのがす訳にはいきません！



後半の聴き所：モーツァルトからドイツロマン派、フランス近代まで！

後半はモーツァルトやブラームス、シューマンといった大作曲家の作品が並びます。交響曲やピアノ作品の印象が強い作曲家達なので、オルガンのための作品を書いているの！？と思われた方も多いのではないのでしょうか？



後半1曲目は**W.A.モーツァルト**の**幻想曲へ短調 KV608**。オペラ『ドン・ジョヴァンニ』を思わせる様な劇的で、濃密な作品です。オルガンの名手でもあったモーツァルトが魅せる、楽器への熟達ぶり、超絶技巧、対位法の技術、緩徐楽章で現れる美しいモーツァルト節。一曲のうちに全てが凝縮された大作です。

J.ブラームスはバッハの「オルガン小曲集」から影響を受け、晩年に「11のコラール前奏曲」を作曲しました。その中からクリスマスのコラール“**一輪のバラが咲いて**”を演奏して下さいます。続いて、**R.シューマン**がペダルつきピアノのために作曲した「**4つのスケッチ**」からは、オルガンのダイナミクスとピアノ作品の繊細な表現力を併せ持つ素敵な二曲が演奏されます。

演奏を締めくくるのはフランス近現代を代表する作曲家でノートルダム大聖堂のオルガニストであった**L.ヴィエルヌ**の名曲です。

「幻想小曲集」よりドビュッシーを思わせる様な“**月の光り**”。そして 学校などのチャイムでお馴染みのメロディーをテーマに展開される“**ウエストミンスターの鐘**”。実はこの作品の中で使われているテーマは、実際の鐘の音と少し違う所があります。ぜひ見つけてみて下さいね！12月23日はぜひ、クリスマスコンサートへご来場下さい♪♪♪

❄️ オルガン講座第2回目は盛況のうちに終了&今後のオルガン公演 ❄️

10月18日には今年度第2回目のオルガン特別講座がマーキーホールにて開催されました。第2回目ということで、国や時代の異なるオルガン作品とその楽器の特徴をスクリーンやCDを使って学び、耳にも目にも興味深い充実の講座でした！そして、来年2016年2月19日（金）は姫路パルナソスホールのオルガニスト岩佐智子さんをお迎えして500円オルガンコンサート、そして3月5日（土）には私・梅干野安未のリサイタル『パリの作曲家達～バッハへの眼差し～』が開催され、ゲストにはなんとフルート奏者の高木綾子さんをお迎えします！どちらも、どうぞお楽しみに！

